

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名:はぐはぐキッズこども園東上野
施設所在地:台東区東上野2-13-12M&Mビル3階
法人名:はぐはぐキッズ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ> 保育環境「見立て遊び」～のびのびと自由な発想や表現を楽しむ～

<テーマの設定理由>

本園では、子ども主体の保育を取り入れており、様々な観点から子ども主体の保育について考え深めてきた。子どもたちが一つの素材から想像を広げ「これは何に見えるかな?」「こうしたら面白いかも」「こうやってみたらこうなった」という自分たちで遊びを豊かにしていく姿があったため、発想力や創造力をさらに生み出す環境作りを目指し、質の高い玩具や夢中になって遊べる空間づくりを目指した。

2. 活動スケジュール

4月: 園内にて遊びと環境についてどのような事が課題で何が必要かなどのMTGを行う。

5月: 日本保育学会にて遊びや環境についての講演を聞いたり、玩具メーカーの玩具と出会い、購入を検討する。

8月: 保育環境コーディネーターの方に来ていただき、保育環境についてのアドバイスを頂く。

10月: 外部講師を招き研修を行う。遊びのコーナーを再度見直し、子どもたちが夢中になれる空間を作る。

12月: 新規玩具を購入、環境を設置。カラーチェーンで見立て遊び（感触遊び・お絵かき・おままごと）。

1月: ネフスピール・リグノを使って遊ぼう。

2月: レインボーアーチをレインボーフレンズを使ってドールハウス遊び。

3月: レンガ積み木でお城作り。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【本】

「子ども主体の保育をつくる56の言葉」「保育を見ること、語り合うこと」「SDGs時代の保育実践アイデア帳」「動画で学ぶ保育における子どもの遊び」「保育とおもちゃ」「園行事を子ども主体に変える」「お茶の水女子大学こども園の春夏秋冬」

【環境・玩具】

白木棚x3、白木流し台、調理台、パーテーション、アーチレインボウ、サンセットアーチ、パステルアーチ、半円版x2、リグノx3、保育つきみx20、木箱x6、プリズモコマセット徳用x2、20チェーン10色x6、ネフスピールx3、LEDテーブルパネル・A3トレイ付き、WFクライミングアーチ、カラフルフレンズ 他

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちが夢中になって自由な発想で遊べる活動を目指した。

- ① クライミングアーチから広がる遊び（身体を動かす、お店屋さんごっこ）
- ② 自由な発想を形にする（ネフスピール、リグノ、アーチレインボウ、レンガ積み木など）
- ③ 好きな遊びに熱中する（食材の見立て、ごっこ遊び）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

① 「クライミングアーチから広がる遊び」

高いところに登り、高い所から「やっほー」「おーい」とお友だちや保育者を呼ぶ子どもたち。そこで安全に遊べ様々な運動機能も鍛えられるクライミングアーチを設置。すると子どもたちは山に見立て自ら手や足をかけ、登ってみようとしたり、椅子やテーブルかのように座ってみたり、トンネルに見立て電車をくぐらせてみたり、クライミングアーチを立たせてお店屋さんのカウンターに見立てて「いらっしゃいませ」「どうぞ」と保育者やお友だちとやり取りする姿が見られた。



挑戦したい気持ちも
芽生えました



やっほー！



おーい！



顔をのぞかせて嬉しそうな表情



カウンターとしておままごと

② 「自由な発想を形にする」

ネフスピールは最初「積む」事を楽しむ子どもたちの姿が多くあった。仕組みが分かり「積む」だけでなく「組み合わせる」姿が見られるようになった。特にレンガ積み木やネフスピール、リグノ、レインボーアーチ等を組み合わせるそれぞれのイメージに合わせて組み立てたり、友だち同士でイメージを共有しながら作り上げる姿が増えている。4歳児クラスではレンガ積み木を20箱使い、大きなお城を作った。他クラスのお友だちを招待するなど他者との交流が深まるきっかけにもなった。



積み方を考えてみる



イメージを膨らませる



ネフスピールとレインボーアーチを組み合わせる



これは道路だよ！



4歳児クラスが築いたお城



他のクラスとの交流にも繋がった

③ 「好きな遊びに熱中する」

おままごとコーナーにチェーンリングを増やした。様々な食材に見立て、おままごと遊びが広がり、「いらっしゃいませ」「何にしますか？」などのやりとりが増えた。

4歳児クラスではドレス作りがブームとなり、オリジナルの衣装を作って楽しんだ。生活発表会の中でのファッションショーで披露をし、見てもらう喜びを感じている姿が多くあった。

ソファを導入したことで、絵本を読んだりくつろいだりする姿が見られた。自ら靴下を履こうとする姿や、保育者の肯定的な関りも見られ、環境の変化が良い影響を与えている。



ごはんできた！
食べますか？



どれにしますか？



生活発表会に向けた衣装作り



自分たちで飾りを考え、作りました



くつろぎのスペース

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・新しい玩具を提供するときには、まず保育者が遊び方を理解していることが重要。一緒に遊びこんでくれる大人がいるからこそ、子どもたちは遊びに興味を示し、遊び方を知り、そこから自分自身で遊びこみ、学んでいく事を改めて知ることができた。

・見立て遊びが増えたことで、子どもたち自身が考える姿、友達といっしょに考える姿、イメージを共有する姿、完成したものを他者に見せたい（共有したい）という姿が増えている。

・おままごとや絵本コーナー、電車コーナー、構成遊び、ゆったり過ごせるコーナー、机上遊びのコーナー等、コーナー保育を充実させ、またクラスを超えて遊びの環境を広げる事で子どもたちが自ら遊びを選び、一人でじっくり集中して取り組んだり、自分で考え遊びこんだり、また他児と一緒に「こうしてみる?」「こうしたらいいんじゃない?」と会話をしながらの遊びが増えていった。また、遊んだり考えたりと、子どもたちの遊びが充実し、遊びこめる環境がある事で、子どもたち同士の怪我や物の取り合いなどのトラブルが減った。

・遊び方が自由だからこそ、子どもたちは思うがまま考えたままに遊びこむ姿があり、その子の思いや考えていること、経験が詰まった遊びへと発展していくものが見立て遊びであることを改めて感じた。